

光市環境審議会からいただいた意見の概要と市の考え方（対応）

1 骨子案について

意見の概要	考え方（対応）
<p>（第2次光市環境基本計画）後期リーディングプロジェクトに関して、新型コロナウイルス感染症対策を理由に思うように進捗しなかった項目は、これまでの良い流れに逆行した項目も見られる。コロナ禍で市民の行動様式にどのような変化があったかを詳しく調査し、それに見合う新たな方策・目標があっても良いと思う。</p>	<p>「計画策定の基本姿勢（P18）」で示す、新たな生活様式への対応やデジタル化社会の実現等、時代の転換期に即した環境政策として、リーディングプロジェクトにおいて新たな事業展開を検討していきます。</p>
<p>環境学習・体験学習等は、規模を縮小してでも対面で実施する道を模索してほしい。</p>	<p>環境学習・体験学習等については、新たな生活様式への対応やデジタル化社会の実現を目指した学習方法の検討を進めていくとともに、引き続き、感染症対策を適切に行いながら、対面での実施を推進していきます。</p>
<p>MOTTA INAIプロジェクトにおいては、フードロス（食品ロス）という観点でも直接的な目標があっても良いと思う。</p>	<p>食品ロスに関する目標の設定については、リーディングプロジェクトにおいて検討していきます。</p>
<p>環境情勢は刻一刻と変化しているため、5年後の見直しを基本としても、必要に応じて計画を変更する対応も必要だと思う。</p>	<p>「計画の期間（P3）」において、環境問題や社会情勢の変化等を踏まえ、必要に応じて見直しを行うこととしており、毎年度行う環境審議会における点検・評価も参考にしながら、適切に対応していきます。</p>
<p>「第3章 光市が目指す姿」、「第5章 地球温暖化への対策」、「第6章 リーディングプロジェクト」については、議論が必要と考える。</p>	<p>今後も環境審議会からいただいた御意見を参考にしながら、計画策定を進めていきます。</p> <p>なお、構成の変更に伴い、「第5章 地球温暖化への対策」は、素案「第5章 基本方針ごとの施策」の「施策の柱1 脱炭素の推進」及び「施策の柱2 気候変動対策の推進」において取りまとめることとしました。</p>

2 「目指す環境像」について

意見	考え方（対応）
<p>第3次光市環境基本計画では、SDGsにとって節目となる2030年をまたぐことになるので、特に目標11「住み続けられるまちづくり」を強く意識した言葉を、光市らしく加えると良いと思う。</p>	<p>いただいた御意見は素案に反映していますが、最終案までに目指す環境像を設定します。</p>
<p>中高生アンケートの結果にある、「自然を守る（大切に）」、「ポイ捨てをしない、海洋ごみを削減する」、「住み続けられる持続可能な」といった意見を具現化してほしい。</p>	
<p>「持続可能な豊かで住みやすい生活環境」の視点を取り入れた環境像にしてほしい。</p>	

3 「リーディングプロジェクト」について

意見	考え方（対応）
<p>食品ロスに関しては、直接的な目標を定めて取り組んでほしい。</p>	<p>「市民のライフスタイル転換の支援」の中での取組の一つとして検討していきます。</p>
<p>「身近にできる地球と財布にやさしいエコライフの取組」という観点から、取り組むべき課題や問題点等を抽出し、課題を解決するためのプロジェクトを検討してほしい。</p>	
<p>公共交通機関の利用促進においては、拡充とEVの普及とを合わせて検討していただきたい。</p>	<p>「市域全体の脱炭素化の推進」の中での取組の一つとして検討していきます。</p>
<p>EVの促進化（購入補助金、EVステーションの整備など）をお願いしたい。</p>	
<p>新しく住宅を建てる際の太陽光発電設備設置の義務化をし、災害対応などにも結び付ける。</p>	
<p>休耕田に太陽光発電設備を設置し、森林を保全するとともに、太陽光発電設備のもとで栽培に適した農作物を栽培するなどの活用を図る。</p>	
<p>環境学習に関しては、近隣組織等との連携を図り、ワークショップ（体験学習）は、更なる拡充を検討してほしい。</p>	<p>「環境教育の推進」の中での取組の一つとして検討していきます。</p>